



雨上がりの回復力が抜群
初心者でも育てやすい

よく咲くペチュニア 「バカラIQ」

作型図	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
寒地 / 寒冷地				●	●	●	●	●	●	●		
温暖地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	
暖地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

● まきどき ● 開花期

※栽培方法・時期は目安です。適温でのタネまき、地域や条件に合わせた栽培をおすすめします。

夏の終わりごろ切り戻すと秋まで楽しめる

おすすめアイテム

タネ



ジニア
バカラIQ ミックス

※タネ袋のデザインは変更することがあります。

タネまき資材



ジフィーセブン
(そのまま植えられる土ポット)

培養土



花三味®

基礎情報

分類	ナス科
用途	地植え / 鉢植え
日当たり	日なた
耐暑性	強
耐寒性	中

タネをまく前に 毎回確認! タネまき基本3チェック

☑ 気温をチェック

気温が高過ぎても低過ぎてもうまく発芽できません。天気予報などで気温を確認してからタネをまきましょう。特に春は日中暖かくても夜は冷えるので注意してください。

☑ 土の厚さをチェック

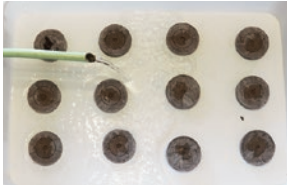
発芽するときに光を好むもの、嫌うもの、どちらでもいいものがあります。必ずチェックしてからまきましょう。

☑ 土が乾燥していないかチェック

タネまき後、発芽まではこまめに水やりしてください。発芽するまで乾燥は厳禁。ジョウロでの水やりでタネが流されそうな場合は霧吹きを使ってください。

手順

1 タネまき



「ジフィーセブン」をトレーに入れてたっぷりの水で膨らませます。



「ジフィーセブン」の中央部を割り箸で軽くほぐします。



タネを3粒程度まきます。



発芽するまで1日1回霧吹きで水をかけます。

ペチュニアのタネはとても細かいので、まきやすいようにコーティングを施してあります。発芽するまではコーティングを溶かすように1日1回霧吹きで水をかけます。タネまきには「ジフィーセブン」を使うのがおすすめです。上から水をやるとタネが流されてしまうので、発芽するまでは、「ジフィーセブン」に底から水を吸わせるようにします。発芽に光が必要なので、土はかけないでください。まきどきの発芽適温は25℃前後、発芽日数は10日前後。発芽がそろったら受け皿の水は捨て、乾いてきたら吸水させるようにすれば、根張りのよいしっかりした苗に育ちます。温度が低い場合は、ビニール袋などをかけて保温しましょう。

ジフィーセブンってなに？

中央のくぼみにタネをまき、芽が出たらそのまま植え付けできるタネまきお助けアイテムです。タネまき用土など特別に用意しなくてもタネまきが手軽にできます！

水につけ吸水させて使用します



手順

2 間引き

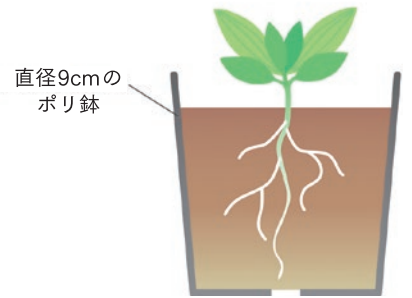
葉が触れ合うようになったら生育のよい苗を残して間引きます。



手順

3 仮植え

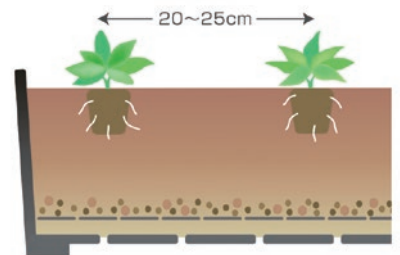
タネまき後30～40日、本葉2～3枚になったら植え付けの適期です。「ジフィーセブン」より一回り大きなポリ鉢（直径9cm程度）に植え付けましょう。土は「花三昧」がおすすめです。10日くらいたち、よく根付いたら、屋外でよく日に当てて育てます。



手順

4 定植

本葉が10枚くらいになり、ポリ鉢内によく根が回ったら、20～25cm間隔に定植します。日当たり、風通しのよい場所が適地です。



手順

5 切り戻し

開花期の長い花なので、肥料を切らさないように植物の様子を見ながら施しましょう。夏の終わりごろ、伸び過ぎた枝を1/3程に切り詰めれば、若い枝が再生し、秋の開花が楽しめます。

